

令和 2 年 7 月 22 日依頼「書面決議」の結果

- 1 書面議決書の提出
過半数の委員からの提出あり。(15 名/19 名)
- 2 書面決議の結果
「賛成する」・・・15 名 「反対する」・・・0 名
- 3 参考

議案書

議題 「大阪市消防局高度専門教育訓練センター救急救命士養成課程カリキュラム」の改正について

- ・「救急救命士標準テキスト」の改訂に伴い、下記のとおり、カリキュラムを改正する【資料 1-3】【資料 1-4】参照
- ・救急救命士標準テキストの科目が統合及び削除されたため、科目数を 111 科目から 108 科目に改正
- ・救急救命士標準テキストの科目の削減及び内容変更により、総講義時間を 514 時間から 504 時間に改正
- ・カリキュラム改正に伴い、臨地実習及びその他の講義時間数を 470 時間から 480 時間に改正

医対第2306号
令和2年7月22日

大阪府救急医療対策審議会委員 各位

大阪府健康医療部保健医療室長

大阪市消防局高度専門教育訓練センター救急救命士養成課程
カリキュラムの一部改正等に係る書面決議等について（依頼）

日頃から、本府救急業務の高度化推進に、格別の御理解、御協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、令和2年4月22日付け「改訂第10版 救急救命士標準テキスト」の発行に伴い、本年9月からの救急救命士養成課程を開始するにあたり、「大阪市消防局高度専門教育訓練センター救急救命士養成課程カリキュラム」の一部を改正する必要があります。

さらに8月には、改正予定のカリキュラムに沿った講師派遣依頼等の準備を進めていく必要があります。

つきましては、ご多忙中のところ、大変恐縮ですが、日程的な都合により、下記のとおり、書面により本審議会の決議を賜りたく存じますので、別紙「書面議決書」について、令和2年7月31日（金）までにご提出いただきますようお願いいたします。

なお、救急業務高度化推進に関する部会において本件については、審議済であることを申し添えます。

記

- 1 書面決議に係る議題
別紙「議案書」のとおり
- 2 提出書類
別紙「書面議決書」
- 3 提出期限
令和2年7月31日（金）
- 4 提出方法
別紙「書面議決書」に記載のFAX番号又は電子メールアドレスへ送信してください。
(本件につきましては、下記の消防保安課が担当しております。)

(担当)
大阪府政策企画部危機管理室消防保安課
消防指導グループ 担当：中原
TEL：06-6944-6458
FAX：06-6944-6654
E-mail：NakaharaSh@mbox.pref.osaka.lg.jp

(事務局)
大阪府健康医療部保健医療室 医療対策課
救急・災害医療グループ 担当：中山・関・山下
TEL：06-6944-9168

議案書

議題 「大阪市消防局高度専門教育訓練センター救急救命士養成課程カリキュラム」
の改正について

「救急救命士標準テキスト」の改訂に伴い、下記のとおり、カリキュラムを改正する。(別紙1・別紙2参照)

- ・救急救命士標準テキストの科目が統合及び削除されたため、科目数を111科目から108科目に改正。
- ・救急救命士標準テキストの科目の削減及び内容変更により、総講義時間数を514時間から504時間に改正。
- ・カリキュラム改正に伴い、臨地実習及びその他の講義時間数を470時間から480時間に改正。

救急救命士養成課程カリキュラムの改正点について

救急救命士標準テキスト第10版が発刊されたため、大阪市消防局高度専門教育訓練センター救急救命士養成課程のカリキュラム（案）を以下のように改正にします。

- 1 救急救命士標準テキストの科目が統合及び削除されたため、科目数を111科目から108科目に変更されています。
- 2 救急救命士標準テキストの科目の削減及び内容変更により、総講義時間数を514時間から504時間に改正いたします。
 - (1) 講義時間数（削減）
 - 「代謝障害」は科目削除のため、8時間削減。
 - 「先天異常」は科目削除のため、2時間削減。
 - 「医薬品の基礎」は科目削減のため、2時間削減。
 - 「重要な医薬品」は科目削減のため、2時間削減。
 - 「検査」は項目削減のため、2時間削減。
 - 「救急救命士の役割と責任」は科目削除のため、2時間削減。
 - 「現場活動の基本」は科目削除のため、4時間削減。
 - 「皮膚軟部組織外傷」は科目削除のため、2時間削減。
 - (2) 講義時間数（増加）
 - 「炎症」と「感染」は項目拡大のため、4時間増加。
 - 「死」は「行政解剖」内容を組み込むとともに、「救急隊の不搬送判断」等の教育時間確保のため、6時間増加。
 - 「消防機関における救急活動の流れ」は項目拡大のため、2時間増加。
 - 「四肢外傷」は項目拡大のため、2時間増加。
- 3 カリキュラム改正に伴い、臨地実習及びその他の講義時間数を470時間から480時間に改正いたします。
 - (1) 「行政解剖」は科目から削除し、4時間削減。
 - (2) 「シミュレーション実習等」は状況設定訓練を追加し、5時間増加。
 - (3) 「プレテスト」は全範囲試験のため、2時間増加。
 - (4) 「効果測定」は講義回数を削減し、1時間削減。
 - (5) 「模擬試験」は講義回数を増加し、8時間増加。
- 4 改正の詳細については、別紙2を参照してください。

令和元年度カリキュラム (改訂第9版)					令和2年度カリキュラム (改訂第10版)					変更点		時間 /単位	出題 割合 /合	
教育分野	単位	科目(改訂第9版)	標準テキスト 記載ページ	ページ数	R1時間数	教育分野	単位	科目(改訂第10版)	標準テキスト 記載ページ	ページ数	R2時間数	時間計		
基礎分野	健康と社会 保障(上巻)	人間と人間生活				基礎分野	健康と社会 保障	人間と人間生活				16	16	3%
		科学的思考の基礎						科学的思考の基礎						
		保険医療制度の仕組みと現状	24~51	28	10			保険医療制度の仕組みと現状	20~39	20	10			
		社会保障と社会福祉を支える仕組み	52~63	12	6			社会保障と社会福祉	40~52	13	6			
		人体を構成する要素	68~75	8	4			人体を構成する要素	56~62	7	4			
		体表からみる人体の構造	76~92	17	4			体表からみる人体の構造	63~76	14	4			
		神経系	93~109	17	4			神経系	77~91	16	4			
		感覚系	110~114	5	2			感覚系	92~96	5	2			
		呼吸系	115~125	11	6			呼吸系	97~107	11	6			
		循環系	126~140	15	6			循環系	108~118	11	6			
消化系	141~155	15	6	消化系	119~128	10	6							
泌尿系	156~159	4	2	泌尿系	129~131	3	2							
生殖系	160~168	9	2	生殖系	132~138	7	2							
内分泌系	169~173	5	4	内分泌系	139~142	4	4							
血液・免疫系	174~185	12	4	血液・免疫系	143~150	8	4							
筋・骨格系	186~191	6	2	筋・骨格系	151~154	4	2							
皮膚系	192~196	5	2	皮膚系	155~158	4	2							
生命の維持	197~207	11	4	生命の維持	159~162	4	4							
疾患	210~217	8	2	疾患	164~169	6	2							
専門基礎分野	人体の構造と機能 (上巻)	炎症と感染	218~223	6	2	専門基礎分野	人体の構造と機能	炎症と感染	170~173	4	4	30	15	3%
		循環障害	224~229	6	4			循環障害	181~185	5	4			
		代謝障害	230~237	8	8			代謝障害						
		退行性病変と進行性病変	238~242	5	4			腫瘍	186~190	5	4			
		腫瘍	243~246	4	4			損傷と治療	191~193	3	2			
		先天異常	247~249	3	2			死	194~197	4	8			
		損傷	250~252	3	2			医薬品の基礎	200~204	5	2			
		死	253~257	5	2			重要な医薬品	205~210	6	6			
		救急救命士の役割と責任	333~336	4	2			検査	211~214	4	6			
		救急救命士と傷病者の関係	337~344	8	4			生命論理と医の倫理	12~17	6	4			
救急救命士に関連する法令	345~357	13	4	救急医療体制	218~231	14	4							
救急救命士の養成と生涯教育	358~363	6	2	災害医療体制	232~244	13	4							
安全管理と事故対応	364~369	6	4	消防機関における救急活動の流れ	245~252	8	6							
感染対策	370~383	14	6	救急活動時のコミュニケーション	253~259	7	4							
ストレスに対するマネージメント	384~388	5	2	救急救命士に関連する法令	260~270	11	4							
観察	390~395	6	4	救急救命士の生涯教育	271~275	5	2							
現場活動の基本	396~400	5	4	安全管理と事故対応	276~281	6	4							
全身状態の観察	401~415	12	6	感染対策	282~293	12	6							
局所の観察	416~428	13	4	ストレスに対するマネージメント	294~297	4	2							
緊急性・重症度の判断	429~437	9	2	観察総論	300~303	4	4							
資器材による観察	438~455	18	2	全身状態の観察	304~311	8	4							
救急救命士が行う処置	456~543	88	24	局所の観察	312~321	10	4							
救急蘇生法	544~560	17	4	神経所見の観察	322~326	5	2							
在宅療法継続中の傷病者の処置	561~568	8	2	緊急性・重症度判断	327~331	5	2							
傷病者搬送	569~588	20	4	資器材による観察	332~343	12	2							
呼吸不全	591~597	7	4	救急救命士が行う処置	344~418	75	24							
心不全	598~603	6	4	救急蘇生法	419~428	10	4							
ショック	604~615	12	12	在宅療法継続中の傷病者の処置	429~435	7	2							
重症脳障害	616~623	8	6	傷病者搬送	436~451	16	4							
心肺停止	624~633	19	12	呼吸不全	454~457	4	4							
意識障害	636~640	5	6	心不全	458~462	5	4							
頭痛	641~647	7	4	ショック	463~469	7	12							
痙攣	648~654	7	4	重症脳障害	470~476	7	6							
運動麻痺	655~659	5	4	心肺停止	477~485	9	12							
めまい	660~664	5	2	意識障害	488~491	5	6							
呼吸困難	665~670	6	4	頭痛	492~496	5	4							
咯血	671~674	4	2	痙攣	497~502	6	4							
失神	675~679	5	2	運動麻痺	503~506	4	4							
胸痛	680~684	5	6	めまい	507~510	4	2							
動悸	685~688	4	6	呼吸困難	511~515	5	4							
腹痛	689~693	5	6	咯血	516~518	3	2							
吐血・下血	694~698	5	4	一過性意識消失と失神	519~521	3	2							
腰痛・背部痛	699~701	3	2	胸痛	522~525	4	6							
体温上昇	702~707	6	4	動悸	526~528	3	6							
専門基礎分野	救急病態生	神経系疾患	710~728	19	12	救急病態	救急病態	神経系疾患	546~557	12	12	94	16	23%
		呼吸系疾患	729~746	18	16			呼吸系疾患	558~566	9	16			
		循環系疾患	747~774	28	16			循環系疾患	567~586	20	16			
		消化系疾患	775~788	14	14			消化系疾患	587~596	10	14			
		泌尿・生殖系疾患	789~798	10	8			泌尿・生殖系疾患	597~603	7	8			
		代謝・内分泌・栄養系疾患	799~815	17	12			代謝・内分泌・栄養系疾患	604~616	13	12			
		血液・免疫系疾患	816~823	8	4			血液・免疫系疾患	617~621	5	4			
		筋・骨格系疾患	824~831	7	6			筋・骨格系疾患	622~626	5	6			
		皮膚系疾患	832~838	8	2			皮膚系疾患	627~629	3	2			
		眼・耳・鼻の疾患	839~845	7	4			眼・耳・鼻の疾患	630~634	5	4			
感染症	846~857	12	4	感染症	635~643	9	4							
小児に特有な疾患	858~880	21	8	小児に特有な疾患	644~657	14	8							
高齢者に特有な疾患	881~893	12	6	高齢者に特有な疾患	658~664	7	6							
妊娠・分娩と救急疾患	894~909	16	6	妊娠・分娩と救急疾患	665~675	11	6							
精神障害	910~925	16	8	精神障害	676~686	11	8							
専門基礎分野	救急症候学(下巻)	外傷総論	928~944	17	6	救急症候学	救急症候学	疫学と外傷システム	688~690	3	2	52	26	14%
		外傷の病態生理	945~950	6	4			受傷機転	691~701	11	4			
		外傷の現場活動	951~959	9	2			外傷の病態生理	702~707	6	4			
		頭部外傷	960~968	9	4			外傷の現場活動	708~714	7	2			
		顔面・頭部外傷	969~975	7	2			頭部外傷	715~721	7	4			
		脊椎・脊髄外傷	976~983	8	2			顔面・頭部外傷	722~726	5	2			
		胸部外傷	984~991	8	4			脊椎・脊髄外傷	727~732	6	2			
		腹部外傷	992~996	5	4			胸部外傷	733~738	6	4			
		骨盤外傷	997~1001	5	2			腹部外傷	739~742	4	4			
		四肢外傷	1002~1009	8	2			骨盤外傷	743~746	4	2			
皮膚・軟部組織外傷	1010~1014	5	2	四肢外傷	747~754	8	4							
小児・高齢者・妊婦の外傷	1015~1021	7	4	小児・高齢者・妊婦の外傷	755~759	5	4							
熱傷	1022~1028	7	4	熱傷	760~765	6	4							
化学損傷	1029~1036	8	4	化学損傷	766~771	6	4							
電撃症・雷撃症(熱傷)	1037~1043	7	2	電撃症・雷撃症	772~777	6	2							
総頸・絞頸	1044~1046	3	2	総頸・絞頸	778~780	3	2							
刺咬症(傷)	1047~1053	7	2	刺咬症(傷)	781~785	5	2							
中毒総論	1056~1064	9	2	中毒総論	788~795	8	2							
中毒各論	1065~1082	18	6	中毒各論	796~807	12	6							
異物	1083~1087	5	2	異物	808~811	4	2							
溺水	1088~1091	4	2	溺水	812~814	3	2							
熱中症	1092~1099	8	2	熱中症	815~820	6	2							
偶発性低体温症	1100~1103	4	2	偶発性低体温症	821~823	3	2							
放射線障害	1104~1115	7	4	放射線障害	824~832	9	4							
その他の環境障害	1116~1125	10	8	その他の環境障害	833~839	7	8							
小計	24単位			514	小計	24単位			504					
専門基礎分野	環境障害・急性中毒(下巻)	疫学と外傷システム	688~690	3	2	環境障害・急性中毒	環境障害・急性中毒	疫学と外傷システム	688~690	3	2	28	28	5%
		受傷機転	691~701	11	4			受傷機転	691~701	11	4			
		外傷の病態生理	702~707	6	4			外傷の病態生理	702~707	6	4			
		外傷の現場活動	708~714	7	2			外傷の現場活動	708~714	7	2			
		頭部外傷	715~721	7	4			頭部外傷	715~721	7	4			
		顔面・頭部外傷	722~726	5	2			顔面・頭部外傷	722~726	5	2			
		脊椎・脊髄外傷	727~732	6	2			脊椎・脊髄外傷	727~732	6	2			
		胸部外傷	733~738	6	4			胸部外傷	733~738	6	4			
		腹部外傷	739~742	4	4			腹部外傷	739~742	4	4			
		骨盤外傷	743~746	4	2			骨盤外傷	743~746	4	2			
四肢外傷	747~754	8	4	四肢外傷	747~754	8	4							
小児・高齢者・妊婦の外傷	755~759	5	4	小児・高齢者・妊婦の外傷	755~759	5	4							
熱傷	760~765	6	4	熱傷	760~765	6	4							
化学損傷	766~771	6	4	化学損傷	766~771	6	4							
電撃症・雷撃症	772~777	6	2	電撃症・雷撃症	772~777	6	2							
総頸・絞頸	778~780	3	2	総頸・絞頸	778~780	3	2							
刺咬症(傷)	781~785	5	2	刺咬症(傷)	781~785	5	2							
中毒総論	788~795	8	2	中毒総論	788~795	8	2							
中毒各論	796~807	12	6	中毒各論	796~807	12	6							
異物	808~811	4	2	異物	808~811	4	2							
溺水	812~814	3	2	溺水	812~814	3	2							
熱中症	815~820	6	2	熱中症	815~820	6	2							
偶発性低体温症	821~823	3	2	偶発性低体温症	821~823	3	2							
放射線障害	824~832	9	4	放射線障害	824~832	9	4							
その他の環境障害	833~839	7	8	その他の環境障害	833~839	7	8							
小計	24単位			514	小計	24単位			504					
専門基礎分野	外傷救急医学(下巻)	外傷総論	928~944	17	6	外傷救急医学	外傷救急医学	疫学と外傷システム	688~690	3	2	52	26	14%
		外傷の病態生理	945~950	6	4			受傷機転	691~701	11	4			
		外傷の現場活動	951~959	9	2			外傷の病態生理	702~707	6	4			
		頭部外傷	960~968	9	4			外傷の現場活動	708~714	7	2			
		顔面・頭部外傷	969~975	7	2			頭部外傷	715~721	7	4			
		脊椎・脊髄外傷	976~983	8	2			顔面・頭部外傷	722~726	5	2			
		胸部外傷	984~991	8	4			脊椎・脊髄外傷	727~732	6	2			
		腹部外傷	992~996	5	4			胸部外傷	733~738	6	4			
		骨盤外傷	997~1001	5	2			腹部外傷	739~742	4	4			
		四肢外傷	1002~1009	8	2			骨盤外傷	743~746	4	2			
皮膚・軟部組織外傷	1010~1014	5	2	四肢外傷	747~754	8	4							
小児・高齢者・妊														